令和元年度農地中間管理事業に対する評価・意見等

令和２年６月３０日（火）開催

項　　目	評価・意見等
●実績について	○令和年度の機構貸付目標は８００ｈａであった。 ・市町推進チーム会で事業推進方針の決定、重点推進地区の選定、年度目標面積の設定と推進対象の明確化、関係機関の役割分担等を実施した上でマッチング及び進捗管理を進めた。 ・県段階では、４半期毎に、県関係部局等と連携会議を開催し、推進方針の決定や進捗管理等を行った。 ・土地改良区、集落営農組織、中山間・多面的支払組織、産地部会等の組織に対して、積極的に機構活用を推進した。 ・また、基盤整備事業と連携し、機構が土地改良事業の３条資格者として参画。工事完了後に担い手への貸付を行った。 など、様々な取り組みの結果、目標を若干下回ったものの、７７０ｈａを貸し付けた。
●これまでの取り組みを踏まえて、今後の事業推進に対する提言、意見など	１．担い手の確保について 人・農地プランの実質化における農地の集積・集約化は、担い手　　が不足する中、担い手を確保したり、育てたり、呼び込む仕組みが構築されなければ、難しいのではないか。農地の担当だけではなく、他の部局の支援を仰ぎながら進めていくべきではないか。 ２．地域が主体となった基盤整備の取組について 人・農地プランの将来方針の中で、基盤整備に取り組む必要がある地域が多くなると考えられるが、地域が主体で基盤整備に取り組むことは難しいのではないか。